vinetur

アルゼンチンのワイン輸出、バルクワイン急増で10月は19.3%増

輸出量は28%増と輸出額の伸びを上回った一方、平均輸出価格は1リットル当たり3.12米ドルに下落

2026年11月11日（水）



アルゼンチンのワイン輸出は10月に大きく反発し、出荷量、輸出額とも前年同月を上回った。ただし、この改善も年初からの10カ月間に進んだ価格下落を埋めるには至らなかった。

アルゼンチン国立ブドウ栽培研究所（INV）が11月10日（火）に公表した速報値によると、10月のワイン輸出額は6,810万米ドルで、2025年10月比19.3％増となった。輸出量はさらに大きく伸び、前年の1,710万リットルから28％増の2,180万リットルに達した。

輸出量と輸出額の伸びに差が出たのは、価格が下落したためだ。10月の平均輸出価格は1リットル当たり3.12米ドルで、2025年10月の3.34米ドルから6.8％下がった。INVの数値はFOBベースで、出荷港での価格を示し、運賃と保険料は含まない。

月間の伸びは製品カテゴリーによって一様ではなかった。瓶詰めなど、消費者向け市場にそのまま出荷できる形態のワインは、輸出量が10.9％増の1,470万リットル、輸出額が16.1％増の6,270万米ドルとなった。業界の主な輸出収入源であり、輸出量の約3分の2を占めた一方、10月の輸出額では92％を占めた。平均価格は1リットル当たり4.26米ドルで、前年同月比4.7％上昇した。

バルクワインは数量ベースでさらに大きく伸びた。輸出量は87.8％増の710万リットル、輸出額は76.2％増の530万米ドルとなった。公表された総額から算出すると、平均価格は1リットル当たり約0.75米ドルで、瓶詰めワインの5分の1未満にとどまり、2025年10月比で6.2％下落した。増加の大部分は白ワインによるもので、バルク白ワインの出荷量は36万4,000リットルから130万リットルに増えた。

1月から10月までの全体像は、より厳しいものとなった。アルゼンチンのワイナリーが年初からの10カ月間に輸出したワインは1億6,920万リットルで、2025年同期比5.4％増だった。しかし、輸出額は2.6％減の5億4,040万米ドルとなった。ワイン輸出全体の平均価格は、前年の1リットル当たり3.46米ドルから7.6％下落し、3.19米ドルとなった。

つまり、アルゼンチンは海外でより多くのワインを販売したものの、1リットル当たりの収入は減った。飲料業界、とりわけワイナリーにとって、低価格のバルク出荷へのシフトは、輸出量の増加が輸出収入の同等の伸びにつながっておらず、利益率を圧迫する可能性を示している。

年初来のデータにも、瓶詰めワインとバルクワインの明暗が表れた。瓶詰めワインの輸出量は2.1％減の1億2,160万リットル、輸出額は3.3％減の5億280万米ドルとなった。それでも、ワイン輸出総額の93％を生み出した。平均価格は1.3％下落し、1リットル当たり4.14米ドルだった。

バルクワインは逆の動きを見せた。1月から10月までの出荷量は30.6％増の4,760万リットルとなったが、平均価格が17.8％下落して1リットル当たり0.79米ドルとなったため、輸出額の伸びは7.4％にとどまり、3,760万米ドルだった。

INVのデータによると、この下落は輸出されたワインの構成に関係している。増加分の大半は、ラベルにブドウ品種を表示せずに販売される非品種表示のバルクワインによるものだった。このカテゴリーの輸出量は196.9％増え、白ワインが伸びをけん引したが、価格は1リットル当たりわずか0.34米ドルで、前年同期比30.7％下落した。品種表示のバルクワインの平均価格は1リットル当たり0.93米ドルだった。

年初来の結果には、年央の低迷も影響した。ワイン輸出額は7月に43.8％、8月に27.3％減少し、この2カ月の業界の輸出額は2025年同期を約4,400万米ドル下回った。9月には輸出額が17.8％増加して持ち直し、10月も19.3％増となったが、回復分はそれ以前の減少を完全には補えなかった。

輸出先別では、10月の数量ベースで英国が最大市場となり、月間総量のほぼ4分の1に当たる510万リットルを輸入した。金額は970万米ドルで、このうち大半に当たる370万リットルがバルクワインだった。

輸出額では米国が首位だった。アルゼンチンのワイナリーは10月、ほぼすべてが瓶詰めワインの450万リットルを米国に出荷し、輸出額は1,840万米ドルと、月間のワイン輸出額全体の27%を占めた。ブラジルは250万リットル、940万米ドルで3位となり、全量が瓶詰めワインだった。カナダが160万リットル、500万米ドルで続いた。

INVのデータでは、食品や飲料の甘味料として使われるブドウ果汁製品、濃縮ブドウ果汁の輸出も、まちまちな結果となった。10月の輸出量は8,960トンで前年同月比4.5%増だった一方、輸出額は1,210万米ドルとほぼ横ばいだった。

1月から10月までの濃縮ブドウ果汁の輸出量は18.2%増の8万1,355トン、輸出額は8.1%増の1億1,160万米ドルに達した。輸出量の伸びが輸出額を上回ったため、平均価格は8.5%下落して1トン当たり1,372米ドルとなった。亜硫酸添加果汁を含めると、果汁類の輸出総額は2025年同期比6.8%増の1億1,760万米ドルだった。

INVの速報値によると、ワインと果汁類を合わせた年初からの10カ月間の輸出額は6億5,800万米ドルで、前年同期比1%減となった。